

第40回「環境賞」に5件 地球規模の環境保全期待

日刊工業新聞と日刊工業新聞社が主催する第40回「環境賞」の入賞案件が決定した。応募総数50件の中から、優秀賞3件、優良賞1件、40回記念特別賞1件の計5件が入賞。環境大臣賞・優秀賞は日本航空、シャムコ、JAL財団、国立環境研究所、気象庁気象研究所で構成したCONTRAILプロジェクトチームによる「定期航空路線を利用した温室効果ガスのグローバル観測」が受賞した。今回は官民連携による環境計画技術、省エネ、リサイクルなど時代のニーズにマッチした案件が高く評価されたのに加え、社会インフラ維持の低コスト化技術、東日本大震災からの復旧に際しての提案など、個人の環境問題に対する熱意を感じさせる受賞案件が目立つ。(1面参照)

「環境大臣賞」官民連携の好例

審査委員
合志 陽一



環境賞は94年の第1回設けられ、今年で第40回を迎える。これまで約1000件の応募の中から、毎年約50件の入賞案件が決定している。今年も、環境大臣賞・優秀賞・優良賞・特別賞の計5件が入賞した。その中でも、環境大臣賞・優秀賞は、日本航空、シャムコ、JAL財団、国立環境研究所、気象庁気象研究所で構成したCONTRAILプロジェクトチームによる「定期航空路線を利用した温室効果ガスのグローバル観測」が受賞した。これは、官民連携による環境計画技術、省エネ、リサイクルなど時代のニーズにマッチした案件が高く評価されたのに加え、社会インフラ維持の低コスト化技術、東日本大震災からの復旧に際しての提案など、個人の環境問題に対する熱意を感じさせる受賞案件が目立つ。

審査概観

審査委員は、環境賞の審査を、環境賞の審査委員会の委員から選出する。審査委員は、環境賞の審査委員会の委員から選出する。審査委員は、環境賞の審査委員会の委員から選出する。

「環境大臣賞・優秀賞」

「定期航空路線を利用した温室効果ガスのグローバル観測」

CONTRAILプロジェクトチーム
(日本航空/シャムコ/JAL財団/国立環境研究所/気象庁気象研究所)

777-200ER型機に搭載された2つの観測装置



CME: CO₂濃度連続測定装置

ASE: 自動大気採取装置

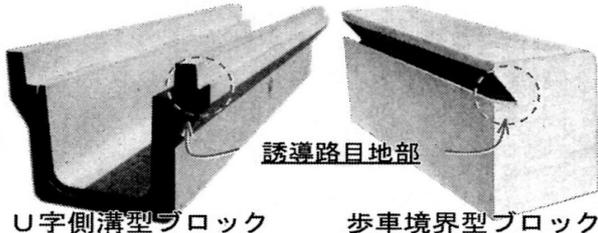
将来の地球温暖化の正確な予測や変動長期にわたる観測の確保や、温室効果ガスの削減や、環境保全CO₂削減のモニタリングが不可欠である。現在世界では100カ所あり、観測は日本航空のボーイング747-400の機上で行われている。観測は日本航空のボーイング747-400の機上で行われている。観測は日本航空のボーイング747-400の機上で行われている。

高頻度に観測データ取得

観測は日本航空のボーイング747-400の機上で行われている。観測は日本航空のボーイング747-400の機上で行われている。観測は日本航空のボーイング747-400の機上で行われている。

「植物の特性を利用した防草技術」

防草機能を備えた次世代ブロック「防草ブロック」



U字側溝型ブロック

歩車境界型ブロック

防草機能を利用した次世代ブロック「防草ブロック」は、U字側溝型ブロックと歩車境界型ブロックの2種類がある。U字側溝型ブロックは、側溝に草の根が通らないように設計されている。歩車境界型ブロックは、歩道と車道の境界に設置することで、草の成長を抑制する。

防草機能を利用した次世代ブロック「防草ブロック」は、U字側溝型ブロックと歩車境界型ブロックの2種類がある。U字側溝型ブロックは、側溝に草の根が通らないように設計されている。歩車境界型ブロックは、歩道と車道の境界に設置することで、草の成長を抑制する。

【優良賞】

防草研究会・石川繁氏

本技術は、目地の防草対策として従来実施されている防草技術(人的草刈、防草テープ・シート、除草剤散布など)が必要なく、雑草が自ら成長を止める特性をコンクリート二次製品(防草ブロック製品、道路維持作業の防草対策(防草カッター工法)、現場打ち構築物や舗装材による防草)と併用することで、雑草の成長を抑制する。また、目地の防草対策として従来実施されている防草技術(人的草刈、防草テープ・シート、除草剤散布など)が必要なく、雑草が自ら成長を止める特性をコンクリート二次製品(防草ブロック製品、道路維持作業の防草対策(防草カッター工法)、現場打ち構築物や舗装材による防草)と併用することで、雑草の成長を抑制する。

成長メカニズムを逆手に

防草機能を備えた次世代ブロック「防草ブロック」は、U字側溝型ブロックと歩車境界型ブロックの2種類がある。U字側溝型ブロックは、側溝に草の根が通らないように設計されている。歩車境界型ブロックは、歩道と車道の境界に設置することで、草の成長を抑制する。